

■“社協の存在価値”が問われる今、これからの地域づくりを考えるために ～「市町社協 常務理事・事務局長セミナー」を開催しました～

10月16日（木）・17日（金）の2日間、市町社協の常務理事・事務局長等を対象とした「市町社協 常務理事・事務局長セミナー」をみやき町社協を会場に開催しました。▶今回のセミナーは、事業展開の先導役を担う事務局長等が、社協として今後取り組むべき活動の方向性、求められる役割を学ぶことを目的に開催しました。

▶講師には、（公財）テクノエイド協会 顧問の大橋謙策先生を迎え「地域共生社会の実現に向けた支援体制と社協の役割」について講義いただきました。大橋先生からは「今のままでは社協の存在価値が問われる。だからこそ社協は地域の信頼に応える活動を自らつくりだすことが大切」との言葉があり、参加者はその言葉に真剣に耳を傾けていました。▶また、香川県琴平町社協の越智和子会長の講義では、「香川おもいやりネットワーク」の事例をもとに、福祉施設、社協、民生委員などの地域の関係団体がそれぞれの強みを活かした、協働する仕組みの重要性を学びました。▶2日目はグループ討議を行い、参加者がそれぞれの地域で取り組むべき課題、市町社協の役割について活発に意見を交わしました。▶本会では、誰もが安心して自分らしく暮らせる地域づくりを目指し、市町社協の組織力向上や活動の充実に向けたサポートを推進していきます。



【大橋先生の講義に熱心に
耳を傾ける 参加者】

■職員のスキルアップに職場内研修サポート事業を活用しませんか？

本会では、県内の福祉施設・事業所における職場内研修の実施を支援するため、講師の選定や研修当日の運営などをサポートする「職場内研修サポート事業」を実施しています。▶この事業を活用することで、研修担当者の負担を軽減し、職員が気軽に学べる機会を提供することが可能になります。また、研修を通じてコミュニケーションの活性化や組織全体のパフォーマンスの向上などが期待され、職場環境の改善につながります。▶今年度も、この事業を活用して唐津市社会福祉協議会が運営する介護事業所の職員研修が行われました。

▶研修では、2021年に義務化された「障害福祉・介護サービスにおける業務継続計画（BCP）について」と「パンデミックへの備えについて」学ばれました。

▶参加者からは「BCPの備えがやっぱり大事だと感じた」との声が多くあげられ、感染症への対策としてマニュアルの確認や訓練の実施についての必要性について、職員の理解と意識が高まりました。

▶本事業では、法人・事業所単位だけでなく、近隣の事業所との合同開催にも対応しています。職員のスキルアップやモチベーション向上に、ぜひ「職場内研修サポート事業」をご活用ください。



【感染症対策について
真剣に学ぶ参加者】

■サガン鳥栖ホームゲーム会場で「赤い羽根共同募金」活動を実施しました！

プロサッカーチームサガン鳥栖のご協力により、10月18日（土）にサガン鳥栖ホームゲームの試合開始前に、赤い羽根共同募金活動を鳥栖市支会と実施しました。▶当日の天候はあいにくの曇りでしたが、医療福祉専門学校 緑生館から5名の学生にご参加いただき、曇り空を吹き飛ばすような大きな掛け声で、募金のご協力を呼び掛けていただきました。▶今後本会では、共同募金運動期間中の11月29日（土）に開催されるホームゲームの試合開始前にも募金活動を実施する予定です。▶皆様から集まった募金は、令和8年度に県内で実施される「ひきこもり支援や生活困窮者の自立支援」「地域のつながりを育むふれあいサロン活動の支援」等を実施するまちづくり事業のほか、災害支援活動を支えるための財源として活用します。



【当日は緑生館の学生の皆様のほか、マスコットキャラクターの希望君も募金活動に参加！（駅前不動産スタジアム）】

■コロナ特例貸付のフォローアップのこれから ～より積極的な"プッシュ型支援"の充実～

コロナ特例貸付の返済が始まってから約2年半が経ちました。▶利用者世帯の中には、依然として厳しい生活状況にあり、返済が困難なことを理由に、やむを得ず返済免除をした世帯もあります。一般的な借入では、免除がゴールとなりますが、生活福祉資金は、免除した後も引き続き安定した生活を目指して伴走型で支援することが重要であることから、本会では市町社協および生活自立支援センターや家計改善支援事業所等と連携し、免除後の安定した生活を目指して、利用者世帯に寄り添ったフォローアップを進めています。

▶これまで免除となった方は、本会から免除申請の案内を受け取り、ご自身で申請された方が多いですが、一方で、案内は届いていても申請に至っていない方や転居などにより案内が届いていない方もいらっしゃいます。

その中には、免除の対象となる方や、免除には該当しないものの返済が困難な方が多数おられます。

▶こうした「支援の手が届きにくい世帯」に対して、より積極的にアプローチを行っていく必要があることから、本会および市町社協では、積極的な訪問活動を行うなど“プッシュ型の支援”をさらに充実させていきます。



【各世帯に寄り添った支援を心がけています】

■ ゆめさが大学“大” 学校祭 in SAGAアリーナ に県社協・県共募が出展し、活動をPRしました！

10月29日（水）SAGAアリーナにおいて「ゆめさが大学“大” 学校祭」が開催され、県内各地から現役大学生と卒業生約1,800人の方が来場されました。

▶今回、初めてSAGAアリーナで開催され、会場内には約40のブースが設けられ、県内の様々な活動が紹介されました。本会も「福祉人材センター」や「保育士・保育所支援センター」の取組状況の紹介、また県共募は「赤い羽根共同募金運動」や「歳末たすけあい運動」「災害等準備金」等募金の活用状況についてパネル展示を行いました。

▶今回の出展は、県社協・県共募の事業を広く知っていただく貴重なPRの機会となり、ゆめさが大学で学ばれる方々が「福祉」を通じて、地域の担い手作りへつながることを期待しています。



【ブースにてパネル展示をしている様子】

■令和7年度 九州社会就労センター(セルプ)研究大会佐賀大会を開催しました

10月30日(木)・31日(金)の両日、グランデはがくれにて「令和7年度 九州社会就労センター(セルプ)研究大会佐賀大会」を開催しました。▶本大会は、「幸せの選択支援」～自分で決める「自己選択」支援～をメインテーマに掲げ、障害のある方々が希望に満ちた「働く・くらす」の選択を行えるよう、より良い支援のあり方を検証することを目的に開催し、九州各県から約230名の多数の参加がありました。

▶大会初日には、九州社会福祉協議会連合会会長表彰の伝達が行われ、佐賀県副知事や佐賀市保健福祉部長からのご祝辞を賜りました。また、全国社会就労センター協議会の叶 義文 会長による基調報告や、厚生労働省の鈴木 大樹 就労選択支援専門官による行政説明をいただきました。そして研究部会では、本年10月から始まっている就労選択支援への取組、障害特性に応じた意思決定支援、人材育成を通じた人手不足の解消といった喫緊の課題について深く議論しました。▶2日目には、記念講演として「“働く”を再定義する」をテーマに、日本財団の竹村 利道 シニアオフィサーに講演いただきました。▶この大会を通して、県内の福祉施設や事業所が、サービスの質向上や人材定着に向けた取り組みを学ぶ貴重な機会となりました。



【陣内会長より表彰状の手渡しを受ける九社連会長表彰受賞者】

■お知らせ

■「ひきこもり」「不登校」を共に考えるイベントを開催します！

11月28日、29日に鳥栖市社協と共催で、『Junction in Tosu～「ひきこもり」「不登校」を共に考える合流分岐点～』を開催します。▶ひきこもりや不登校について、「自分だけがこんなことをしているのでは?」「子どもがひきこもっているが、どうしたら良いか分からない」などの悩みを抱えていても、当事者やご家族が相談につながることは容易ではありません。また支援者や周囲の人で、「関わり方がわからない」と悩んでいる人も多いのではないのでしょうか。▶今回のイベントでは、ひきこもりや不登校についての理解を深め、さまざまな立場の人が集い、混ざり合い、対話や交流を通じて理解を深め合う場を目指します。▶1日目は、ひきこもり経験者、社会学者、精神科医とそれぞれの立場から講演会とパネルディスカッションを、2日目はテーマごとに自由に話し合うトークセッションと交流会を予定しています。▶誰もが生きやすい社会について一緒に考えてみませんか。

日 時：11月28日(金)、29日(土)

会 場：サンメッセ鳥栖(鳥栖市本鳥栖町1819)

参加費：無料

定 員：【1日目】300名 【2日目】120名

対象者：ひきこもり当事者/経験者、ご家族、支援者、関心のある方など、どなたでも

※当日参加も可能ですが、定員に達した場合は入場をお断りすることがありますので、事前に下記URLよりお申込みください。(どちらか1日のみの参加も可能です)

詳細についてはこちら ⇒ <https://www.sagaken-shakyo.or.jp/news/000355.php>



■令和7年度 福祉研修センター 研修一覧 ※詳細は本会HP掲載(<https://www.sagaken-shakyo.or.jp/>)

福祉職員が学ぶべき権利擁護と虐待防止研修	令和7年12月4日(木)
(新) AIを活用した福祉業務の効率化実践研修【中級編】	令和7年12月8日(月)
(新) 判断力を磨く！緊急時における適切な意思決定と行動のスキルアップ研修	令和8年1月 予定